



新年のご挨拶

巻税務署長 戸村 敦

新年明けましておめでとうございます。

公益社団法人燕西蒲法人会の皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

和田会長をはじめ役員及び会員の皆様には、日頃から税務行政に対して、深いご理解と格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

貴法人会は、公益法人として納税道義の高揚及び企業と社会の発展に貢献するため、各種研修会の実施や広報活動による税務知識の普及・向上、税に関する絵はがきコンクールや租税教室などの租税教育事業を通じて税務行政の円滑な運営に寄与するとともに、各種講演会やセミナーの開催、社会福祉施設へのタオル等の寄贈などの社会貢献活動にも積極的に取り組んでおられます。

これら一連の取組に対して、深く敬意を表する次第です。私どもとしては、今後も貴法人会の活動がより一層充実したものとなるよう、引き続き連携・協調を図ってまいります。

さて、国税庁では、「税務行政の将来像2023」を策定・公表し、①納税者の利便性の向上、②課税・徴収事務の効率化・高度化、③事業者のデジタル化促進を3本柱として、税務行政のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進しております。

おかげさまでe-Tax利用率は向上しており、今後もe-Taxの利用拡大が見込まれることや、DXに係る取組の進捗も踏まえた上で、国税に関する手

続きが見直され、全庁的に令和7年1月から申告書等の控えに収受日付印を押なつしないことといたしました。

加えて令和6年分所得税の確定申告では、マイナポータル連携により更に利便性が向上している「マイナンバーカードを利用した自宅e-Tax申告」や振替納税をはじめとした「キャッシュレス納付」を積極的に勧奨するとともに、確定申告会場の対応は「マイナンバーカード方式によるスマホ申告」を基本とし、翌年以降の自宅e-Tax申告へスムーズに移行できるように取り組んでまいります。

法人の役員並びに従業員の皆様方が所得税の確定申告をされる際には、是非とも「自宅からのスマホ申告」や「キャッシュレス納付」のご利用をお願いいたします。

また、インボイス制度については、制度の円滑な定着に向けた周知を継続しつつ、登録をするか否かを検討している事業者をはじめ、個々の事業者の立場に寄り添った丁寧な対応に努めてまいります。

皆様方には、税務行政の良き理解者として、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たり、令和7年が公益社団法人燕西蒲法人会の皆様方にとりまして、幸多き年となりますよう心から祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

電子申告で効率UP! 国税電子申告・納税システム

e-Tax

「e-Tax」なら
国税に関する申告や納税、
申請・届出などの手続きが
インターネットで行えます。

納税にはダイレクト納付が 便利です!

e-Taxを利用して電子申告等をした後に、届出をした預貯金口座から、簡単な操作で即時又は期日を指定して納付することができます。

※事前にダイレクト納付利用届出書の提出が必要です。
※利用可能となるまで、オンライン提出の場合は1週間程度、書面提出の場合は1か月程度かかります。

e-Taxを利用して所得税及び復興特別所得税の申告をするとこんなメリットが!

添付書類の提出省略
還付がスピーディー

ご利用に際し条件、注意事項があります。詳しくはホームページでご確認ください。

法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

法人会

イータックス 🔍 検索





“関東信越国税局長表彰” 受賞

佐藤 清隆 氏

“巻税務署長表彰” 受賞

横山 正憲 氏



令和6年11月14日(木)の合同納税表彰式において、納税道義の高揚に対する功績から「関東信越国税局長表彰」に佐藤理事「巻税務署長表彰」に横山理事、が受賞されました。誠にありがとうございました。これからの更なるご活躍を祈念申し上げます。



【佐藤理事】



【横山理事】



中学生の税についての作文 高校生の税に関する作文

令和6年度「中学生の税についての作文」「高校生の税に関する作文」の関東信越税務連絡協議会長賞、巻税務署長賞を受賞されました作品を御紹介させていただきます。

関東信越税務
連絡協議会長賞

“税とは何か”

新潟県立巻高等学校 1年 岡本 優花 さん



直接税とは何かと聞かれたら、税金を納める人と負担する人が同じ税だと答えられるし、累進課税とは何かと聞かれたら、所得が多いほど税率が高くなる制度だと答えられる。高校入試のため中学生の時に財政について何度も学習したからだ。でも、私には未だに答えられない問題があった。税とは何か、という問題である。

小学生の頃から税について気になってはいたものの、難しいどうせ中学生で税について学べば理解できるはずだからいいや、と税について考えることをやめてしまった。結局私は高校生になっても税とは何かを説明できなかった。税の授業を受けても、いろいろな税の種類を覚えても、使われ方を学んでも、税をどう説明していいのかわからなかった。調べてもわからない事はどうしたらいいのだろうと考えた私は、税がなかった場合の生活を想像してみようと思った。まず朝起きると母がゴミをまとめてくれているが、税がなければゴミは回収も処理してもらえないので自分たちでどうにかするしかない。ちゃんと処理する人はどれくらいいるだろうか。私は学校まで歩いて登校するが、道路は税金がなければ整備されないでガタガタしているだろうし、ゴミを処理しない人が捨てたゴミが道に放置されているかもしれない。そんな風景を想像するだけで学校に行くのが嫌になりそうだ。そんな道を歩

いて学校に着いたら授業が始まる。だが学校の建設費も税金から出ているので、税がない場合は学校自体が無くなるかもしれない。もし学校があっても、授業に必要な教科書などは義務教育期間中でも自分で購入しないといけないので負担が大きくなる。本当に税がなくなったら、この想像よりもひどい生活が待っていると思う。生きていけない、と思った。こんな世界では誰も幸せになれない。私が今生きているのも、将来の事を考えられるのも、全部税のおかげだったんだと気づいた。国債や少子化による若い人の負担の増加など、税についての問題点や改善点はあると思う。でも、私達の今までの人生は税によって支えられていて、これからの人生を税が保証してくれている事を忘れてはいけないはずだ。

税とは何か、と聞かれたら今の私はこう答える。税は私達の過去を作り、今を生きる私達を支え、未来を広げるものだ。だがこれはあくまで今の私が考えた答えなので、これからいろいろな経験をしていく中でまた答えは変わっていくのではないかなと思う。当たり前だと思っていた今の生活は、税のおかげで成立している生活であり、税によって当たり前になっている生活だ。税とは何かという問題の答えを、これから先も常に考えながら生きていこうと思った。

巻税務署長賞

“山と税金”

新潟県立燕中等教育学校 3年 佐藤 駿さん



スキー板を背負ってリフトに向かう。スキーは、マウンテンバイクや登山とは少し違う冷たい空気を切り裂くような体験ができる。朝の空気は、とても冷たいがおおきな自然や冬ならではの、景色を感じることができる。けれど私が住んでいる地域は豪雪地帯ではない。だから土日の朝は、父と母に遠くの地域まで送ってもらっている。スキー場まで約一時間半かけて車で送ってもらっている。その時に国道8号線をよく通る。朝6時に8号線を通る早い時でも、道は綺麗に除雪されている。魚沼地方は冬になると除雪のおかげで雪の壁ができてしまうほど国道や県道、街の主要道路は整備されている。ロータリー除雪車や除雪ドーザーは冬の間にかくさん見かける。朝の早い時間からお昼頃まで一生懸命に雪を取り除いている。この一連の除雪作業には、私たちの税金が使われている。県もたくさんの業者などに補助金を出して冬の一大事を乗り越えている。

今から約120年前に、県や国での除雪事業が始まった。始まって、最初の頃は機械が導入されることもなく人力で除雪が行なわれていたと知った。機械がはじめて導入されたのは、事業が始まってから約50年後である。そして導入されたのはロータリー除雪車と除雪ドーザーだった。今まで機械が導入されてこなかったことから、大型機械はとても目新しいもののように感じたと思う。その時から大きく進歩した現在は、大型

機械を使用し、昔よりも速く、そして正確に除雪をしていただいている。私達が払っている税金の使われた道に、除雪があったことを知り、とても驚いた。だが大型機械が入りにくい場所や山間部などでは、おじいちゃんおばあちゃん達が自分たちの力で除雪を行うことになる。そうなると屋根の上から落ちてしまったり、見えにくくなってしまい側溝に気付かず落ちてしまったり、命の危険が迫ってしまう。側溝の蓋も税金で賄われている。それに雪は山にある木などを破壊しかねない。落雪や融雪などで道路が封鎖されてしまうかもしれない。そんな時には、山に作られた柵で落雪を防止できる。自分たちにとって、とても大切なものを税金は賄ってくれる。

税というと重苦しいイメージを持つ人が多い。一年の車の重量税、お家の固定資産税、給与から差し引かれる所得税、ものを買う時に発生する消費税など日々の負担は大きい。けれど負担は大きい代わりに私達の健康や生活を守ってくれている。国の治安を維持している自衛隊だったり、地域の安全を守ってくれている消防士や警察官、私達若い世代に勉強をする意味を教えてくれている先生だって、全て税金のおかげなのです。私が冬、毎週綺麗な道路を通ってスキー場に行けること、山間部の地域が雪に埋もれていないことは、80年前からしたら普通じゃないのです。もっと税金をプラスに見てみませんか？

巻税務署長賞

“税の恵みによる生活”

燕市立燕中学校 3年 浅井 優大さん



税という言葉を目にする時、マイナスのイメージを持つ人が多いだろう。僕も以前までは税について良いイメージはあまりなかった。「なぜ税があるのだろう」と、税の意味さえ知らなかった。だが、先日の租税教室で、税は身近なところに使われていて、僕達に様々な恵みをもたらしてくれているということを知った。その時、僕の税に対するイメージは「マイナス」から「プラス」に変わった。

税の使い道について具体的に知りたいと思い、調べてみると、税はいろいろなことに使われていると分かった。例えば、病院で医療サービスを受けるときに払うお金、高齢者に支払われる年金、道路の整備、消防や警察の活動など、幅広い。その中でも、僕達中学生には、教育費として一人当たり約112万円が税金から支払われていると分かった。みんながこれほど税による恵みを受けている中で、もしも税がなくなったらどうなるのだろうかと考えてみた。まず、警察や消防の活動がなくなり、事件や事故が多発し、火災が起きても消し止めることができなくなり、僕達の命も危険にさらされることになる。他にも、医療費や教育費が高額になり、一人一人の負担がとても大きくなってしまふ。つまり、税がなくなったら、僕達は今まで通りの生活をするのが不可能になってしまう。僕達は知らず知らずのう

ちに税に助けられているのだ。

また、租税教室で、税の使い道は国民が決めているということも知った。税の使い道は、国民が選挙で選んだ代表によって決められている。つまり、税の使い道を決めるのは国民で、選挙に行くということで税の使い道を決めるということだ。僕にはまだ選挙権がないが、幼い頃から両親と一緒によく投票所に行っていた。その頃はまだ選挙が税の使い道を決める、大切なものとは思っていなかったが、今は選挙の大切さに気づくことができた。もちろん僕は選挙権が得られたら選挙に行く。その選挙によって僕達の生活に関わる税の使い道が決まる。だから、僕達は選挙に行く必要があるし、しっかりと代表を選ばないといけないという責任がある。選挙権とは、同時に責任も生じると思った。

僕は、税について考えることで、どれだけ税が僕達の生活に役立てられているのか感じる事ができた。また、その使い道を決めるのは国民による選挙だということを知り、選挙権を得ることができたら投票に行き、税のことを他人事ではなく、自分事として認識していきたい。そのような人がもっと増えたら、僕達の税の恵みによる生活はもっと豊かになるはずだと思った。